

8月1日(土)は水の日!

横浜限定公開! みなとみらいが色鮮やかな水面アートに!

横浜高島屋で、一瞬の自然美を捉えた写真展を7月29日(水)より開催

遠藤湖舟 写真展「天空の美、地上の美。-見つめることで「美」は姿を現す-」

7月29日(水)～8月10日(月) 横浜高島屋ギャラリー<8階>

7月29日(水) 11時、14時 遠藤氏によるギャラリートークを開催

主催:読売新聞社 企画協力:株式会社ブレインズ・カンパニー

入場料(税込):一般800円、大学・高校生600円、中学生以下無料

入場時間:午前10時～午後7時30分(午後8時閉場)、最終日は午後5時30分まで(午後6時閉場)

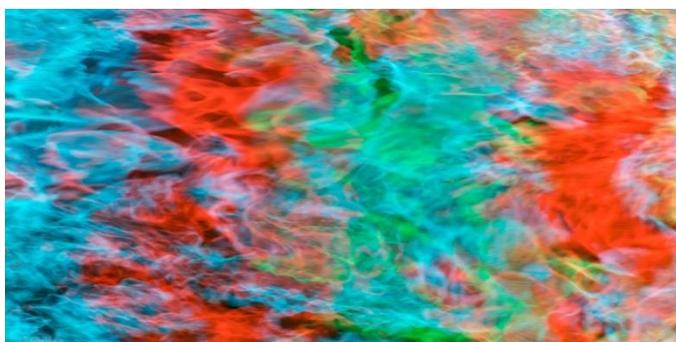
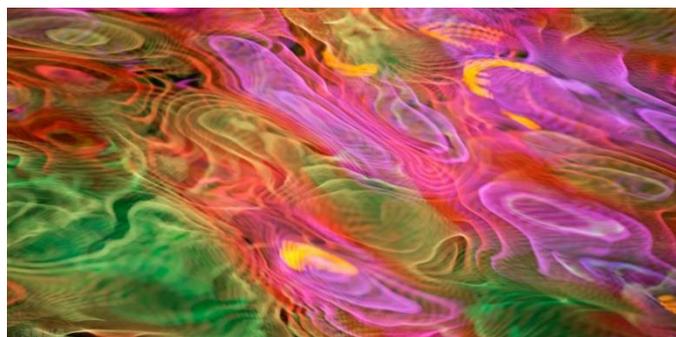
7月29日(水)～8月10日(月)横浜高島屋にて、遠藤湖舟写真展「天空の美、地上の美。-見つめることで「美」は姿を現す-」を開催いたします。同展は、2015年3月より、日本橋高島屋、京都高島屋、大阪高島屋を巡回し、3会場で来場者数が5万人を突破、横浜でファイナルを迎えます。

星々から身近な「美」までを見つめ撮影した作品約130点を展示。大型アクリル作品(高さ1.8m/幅2.7m)や大判プリント作品(高さ1.5m/幅2.2m)、屏風、掛軸や映像などさまざまな手法で立体的に構成され、月や地球、星々の写真を楽しめる体感型写真展です。

【みなとみらいが映る水面をアートに】

日々刻々と変わる自然を絶えず見つめることで、身近な日常に存在する“美”の瞬間をすくい取ろうとする写真家、遠藤湖舟氏。とくに風に揺れる水面に現れた一瞬の“美”を捉えた<ゆらぎ>シリーズは、遠藤氏の代表作です。本展では、横浜での写真展開催に合わせて、横浜みなとみらいで<ゆらぎ>を撮影。きらきらと煌めく大観覧車のイルミネーションが映し出される水面がアート作品となりました。同作品は、横浜高島屋のみでの限定展示予定です。また8月1日の水の日には国交省により水の恵みや健全な水循環の重要性についての理解と関心を深めてもらうために制定された日。遠藤氏は「水はその環境を映し出します。作品に接することにより、水への関心をより強く持っていただけなら、アートとしての役割を果たしたことになります。」と話しています。

初日29日(水)の11時と14時からは遠藤氏によるギャラリートークを開催。作品の解説や写真を通して自然を「見つめる」ことの楽しさについて、語っていただきます。



【報道関係者のお問い合わせ先】(掲載不可)

株式会社 高島屋 広報・IR室 吉岡・浦田 TEL: 045-313-1570 (広報直通)

広報代行:株式会社ブレインズ・カンパニー 担当:下野・村山

TEL: 03-3568-3844 FAX: 03-3568-3838 E-mail: shimono@pjbc.co.jp

YMM-Yuragi2015

※4作品とも

第一楽章 月

地球のこんなに近くに星が浮かんでいるなんて、これは奇跡。最も身近な天体、月。地球から見る月は休みなく姿を変え、時には雲と戯れる。



「皆既光跡」

第二楽章 太陽

太陽の色は白。それが朝と夕に黄や赤に色づく。その色が空や雲を染めて、私たちの心を高揚させるのだ。



「凍れる太陽」

第三楽章 空

空に展開される色彩の素晴らしさを見ないなんて、人生の喜びの多くを逃していることと同等だ。いつだっていい、ちょっとでもいい、空を見上げてみようではないか。



「天空の色彩」

第四楽章 星

都会の光が夜空を浸食して、星を見る機会を遠ざけてしまった。でも星がなくなったわけではない。幾千億の星の光は、いつだって私たちに降り注いでいる。



「昇る金星」

第五楽章 ゆらぎ

水は周りの色彩を水面に乗せ、風に揺らいで刻一刻、形を変える。
一瞬たりとも同じ形は現れない。その一瞬をすくい上げ、心に留めたい。



水面は自然だけでなく、人工物も受け止める。
朝の工場地帯は人も車も少なく、プラントは昇つてきた太陽で清明に輝いている。
建物から運河にこぼれ落ちた色と形はゆらゆらと優しく揺れ、まるで何かをささやき合っているよう。

「Yuragi - 0701112626」



第六楽章 かたわら(傍ら)

「美」は遠く手の届かないところにあるのではない。
私たちのすぐ傍らにいくらだってある。
少し歩を休め見つめてみれば、
そこに「美」は姿を現す。



「飛彩」

■遠藤湖舟(えんどう・こしゅう) プロフィール

1954年長野県生まれ。幼少時より豊かな自然に囲まれて過ごし中学時代より天体写真を撮り始める。天体への興味は尽きず、高校(長野県松本深志高等学校)では、天体観測などを行う地学会と写真部の両方に所属。早稲田大学理工学部応用化学科を卒業、企業に務めた後、写真家に転向する。アートシーン、人物、風景、天体写真など幅広い撮影を手掛ける一方、デザイン、コピーライトなど総合的なアート表現を行う。1983年、撮影に約3年を要した美術年鑑社の日本画家川合玉堂作品集を手掛ける。2004年には千葉県で撮影したブラッドフィールド彗星の写真が話題となり海外誌に掲載される。2006年より本格的に個展を開催し、これまでにない写真と音楽のコラボレーションによる空間表現を展開している。2014年、葉山文化園での個展『「そこにある美」立ち止まり、見つめて』では写真を超える表現や、独自の世界観の作品が人々に深い印象を残した。代表作『宇宙からの贈りもの』に日本画家の平山郁夫氏から、「美は、すぐそばにあることを、この写真集は語りかけてきます。時を超えた“美”が、そこにあります」という推薦文が寄せられている。



【個展】

- 2006年 『Photomelos 光の旋律Ⅰ』(アプリコホール/東京)
- 『Photomelos 光の旋律Ⅱ』(SKホール/東京)
- 2007年 『Photomelos 光の旋律Ⅲ』(アプリコホール/東京)
- 『宇宙の星、地球という星』(新宿野村ビル/東京)
- 『Photomelos 光の旋律Ⅳ』(松本市民芸術館/松本)
- 『遠藤湖舟写真展』(八十二銀行ギャラリー/松本)
- 2008年 『Fusion field』(のざわギャラリー/京都)
- オーケストラとのコラボ『宇宙からの贈りもの』(代々木オリンピックセンターホール/東京)
- 2009年 オーケストラとのコラボ『宇宙からの贈りもの』(代々木オリンピックセンターホール/東京)
- 2014年 葉山芸術祭参加企画 遠藤湖舟写真展『「そこにある美」立ち止まり、見つめて』(葉山文化園/神奈川)
- 2015年 『「天空の美、地上の美。」-見つめることで「美」は姿を現す-』(日本橋高島屋、京都高島屋、大阪高島屋)
- 遠藤湖舟写真展『Victor Hasselbladへのオマージュ』(ハッセルブラッド・ジャパン ギャラリー/東京)

【出版】

- 2007年 『宇宙からの贈りもの』(講談社刊)
- 2010年 かがくのとも10月号『ひるまのおつきさま』(福音館書店刊)